

contents

・新任教授のご紹介
・他院から赴任された
医師のご紹介

- ・診療科紹介
腫瘍内科／消化器・一般外科
- ・三鷹老人クラブで高血圧講演会
- ・もの忘れセンターが東京都
認知症疾患医療センターに登録
- ・シテイバス新ルート運行開始
- ・平成 24 年度公開講演会日程
- ・病院紹介動画を作成



【杏林大学医学部付属病院】
〒181-8611 三鷹市新川 6-20-2
Tel. 0422-47-5511 (代表)
<http://www.kyorin-u.ac.jp/hospital/>

この度、総合医療学教室の臨床教授を拝命致しました。これまでご指導を賜りました諸先生方にこの場を借りて深く感謝を申し上げます。

私自身は、もともと呼吸器を専門としておりましたが、96年からHIV感染症の診療にも携わり、また00年からInfectious Control Team (ICT) を立ち上げ病院内の感染症に関する事案について活動してまいりました。これらを基盤にして、感染症診療をさらにステップアップし地域社会に貢献していきたいと考えます。また感染制御は、現代の病院機構において、欠くことのできない重要な要件と考えています。

様々な病原微生物を完全に制御することは極めて困難ですが、ICTスタッフとのチーム医療を軸とし、各科との信頼関係を構築しつつ、より精度の高い感染管理システムを構築していきたいと考えています。

次世代の人材を育成することも我々の重要な使命です。残念ながら、現在の医療において感染症医を目指す医師は多いとは言えないのが現状です。しかしながら感染症は、医療のあらゆる分野において横断的に関連を有する学問であり、現代の高度化された医療を支える重要な部門でもあります。今後、臨床や研究を通じて感染症に興味を持つ若い医師を一人でも多く育成すべく努力していきたいと思っております。

今後とも微力を尽くしていきたいと思っております。皆様のご支援をこれからもよりよくお願い申し上げます。



総合医療学
感染症科
河合伸教授

最終学歴：昭和 54 年杏林大学医学部卒業
職歴：昭和 58 年 6 月杏林大学医学部第一内科助手、平成 7 年 6 月杏林大学第一内科学教室講師、平成 11 年 4 月杏林大学第一内科学教室助教授、平成 15 年 4 月杏林大学感染症学教室助教授、平成 18 年 4 月杏林大学総合医療学教室助教授、平成 19 年 4 月同准教授、付属病院感染症科診療科長、平成 24 年 4 月同臨床教授

■新任教授のご紹介

この度、脳神経外科の臨床教授に就任いたしました永根基雄です。杏林大学脳神経外科を多摩地区の拠点センターとして、更には国内有数の基幹施設としての役割を果たすべく、日夜診療・研究・教育に励んでおります。

脳神経外科が対象とする疾患は脳腫瘍、脳血管障害および頭部外傷を代表に多岐に及びますが、私は特に悪性脳腫瘍を専門分野とし、国立がん研究センターおよび米国 Ludwig 癌研究所にて、神経膠腫や悪性リンパ腫などの悪性脳腫瘍の治療や新規治療の開発を目指した基礎研究を重ねて参りました。このような治療を現在の先端的医療水準で提供することは、「地域がん診療連携拠点病院」としての本院に課せられた重要な使命と認識してまいりました。特に、初期治療のみならず、その後の維持療法を含めた全人的診療を実践することが、重篤な疾患に苦しんでおられる患者さんやご家族に対して杏林大学脳神経外科が果たすべき任務であると考えております。既に多摩地区における脳腫瘍治療の先端知識の啓発と情報共有を目的に、多摩脳腫瘍研究会を設立、開催いたしております。また、厚生労働省研究班員として多施設共同臨床試験を、また有望な新規分子標的治療薬の国際並びに国内企業治験をも当院に導入しており、今後更に関連部署・施設との連携の強化を図り、多摩地区における総合的がん診療の拠点センターを目指し、尽力してまいります。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。



脳神経外科
永根基雄教授

最終学歴：東京大学医学部医学科卒業
職歴：昭和 59 年 6 月東京大学医学部附属病院脳神経外科研修医、昭和 60 年 6 月亀田総合病院脳神経外科医員、昭和 63 年 1 月都立墨東病院脳神経外科及び救命救急センター医員、平成 3 年 2 月国立がん研究センター中央病院脳神経外科医員、平成 7 年 3 月米国 Ludwig Institute for Cancer Research (San Diego branch), postdoctoral fellow、平成 12 年 2 月杏林大学医学部脳神経科学講師、平成 17 年 4 月同助教授、平成 19 年 4 月同准教授、平成 24 年 4 月同臨床教授

この度、心臓血管外科臨床教授を拝命いたしました。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

心臓血管外科の中で腹部末梢の血管外科を担当させていただいております。対象疾患は腹部大動脈瘤や閉塞性動脈硬化症、下肢静脈瘤、近頃はエコノミークラス症候群として知られるようになった下肢深部静脈血栓症・肺塞栓症などです。また慢性腎不全患者に対するバスキュラーアクセスの作成も診療の中では大きな比重を占めております。破裂すれば即座に生命の危機となる動脈瘤から、放置しても生命予後に関係が少なくない下肢静脈瘤まで対象疾患の重症度と臨床像は多岐にわたります。それぞれの診療に当たっては柔軟な発想を持ち患者のニーズに即した診療が出来る必要があります。それに応えられる専門性を持った医師を育てたいと思っております。

従来の外科的なバイパス手術に加え、最近ではカテーテルを用いた血管内治療が広く取り入れられてきました。当科でも大動脈瘤に対するステントグラフト内挿術は治療の大きな柱となりつつあり、研究チームとしても大きな比重を占めています。症例を重ね、問題点を医局員ともども解決し、臨床に還元できるよう研究を進めたいと思っております。皆様のご指導・鞭撻をよろしくお願ひ申し上げます。



心臓血管外科
布川雅雄教授

最終学歴：東京大学医学部医学科卒業
職歴：昭和 58 年 6 月東京大学医学部附属病院研修医、昭和 59 年 6 月茅ヶ崎市立病院外科医員、昭和 63 年 12 月東京都老人総合研究所臨床病理部研究員、平成 4 年 1 月東京大学第一外科（現血管外科）助手、平成 5 年 10 月フランス、パリ・オテルデユ病院血管外科、平成 6 年 9 月東京大学第一外科（現血管外科）助手、平成 8 年 2 月杏林大学医学部胸部外科（現心臓血管外科）助手、平成 12 年 4 月同講師、平成 15 年 4 月同助教授、平成 19 年 4 月同准教授（名称変更）、平成 24 年 4 月同臨床教授

■他院から赴任された医師のご紹介

新年度に伴い、他の医療施設から当院に赴任された医師（講師以上）をご紹介します。これから地域医療機関の皆さまにお世話になると思っていますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

- | | | | |
|---------------|------------|---------|----------|
| ◎呼吸器・甲状腺外科 | 近藤 晴彦 教授 | ◎神経内科 | 傅法 倫久 講師 |
| ◎A T T 科 | 野村 英樹 教授 | ◎心臓血管外科 | 野間 美緒 講師 |
| ◎糖尿病・内分泌・代謝内科 | 犬飼 浩一 准教授 | ◎耳鼻咽喉科 | 小柏 靖直 講師 |
| ◎精神神経科 | 渡邊 衡一郎 准教授 | | |
| ◎人間ドック | 本間 聡起 准教授 | | |

診療科紹介

◆腫瘍内科

がん治療の進歩は著しく、がん薬物療法（抗がん剤）は、分子標的薬と呼ばれる新しい治療薬も登場して効果が期待できる一方で、適応や副作用が複雑になっていきます。臓器や治療手段にとらわれず、全体的な視点で診療を行っていくことが重要です。

08年4月にがんセンターが開設され、腫瘍内科はその中心を担う科でもあります。がん診療はチーム医療が求められており、外科・内科・放射線科・病理部・薬剤部・看護部・ソーシャルワーカーなど多くの部門の協力によって成り立ちます。腫瘍内科では、がん薬物療法を主な治療手段として患者さんに最も適した治療を提供します。また新しい有効な治療法の開発を目的とした臨床試験も積極的に進めています。



◆消化器・一般外科

地域との連携も重要で、近隣病院や診療所と定期的に検討会や勉強会を開催しています。地域をみながら支えられるようにICTを用いた医療連携システムも研究中です。がん診療はまだ解決すべき課題が多く、皆様のご指導ご協力を賜れば幸いです。

消化器・一般外科の総手術件数は増加傾向で、肝胆膵の手術症例も多く日本肝胆膵外科学会高度技能研修施設(A)の認定を受けています。また、最近では腹腔鏡下手術の割合が増加しており、肝・膵疾患に対しても、最新の腹腔鏡下手術を導入しました。食道や胃、大腸腫瘍に対する内視鏡的切除や、総胆管結石に対する除石治療などの内視鏡治療も積極的に進めており、内科的治療も力を入れていきます。

教室員は、厚生労働省難治性疾患克服事業肝内結石班、厚生労働科学研究費補助金がん臨床研究事業などに属し社会的活動を行うとともに、幅広い研究活動を行っており、それ

らの成果は国内のみならず世界に向けて発信しています。また、近隣の医療施設との研究会を開催するなど、緊密かつ円滑な地域医療連携を目指して日常臨床に当たっています。皆様にはご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、常に様々なリスクが伴う外科医療の特質をどうかご理解いただき、今後ともご協力をお願い申し上げます。

■三鷹市老人クラブ連合会との合同行事で高血圧について講演

2月2日(木)に三鷹市教育センターで、三鷹市老人クラブ連合会との合同行事として講演会を開催し、三鷹市老人クラブ連合会の会員や一般市民の方、約90名が参加され会場は満員になりました。

はじめに、三鷹市老人クラブ連合会高橋景市会長より開催の挨拶があり、続いて循環器内科の吉野秀朗教授が「自分の健康は自分で守る」と題して高血圧や心臓病について講演し、高血圧は症状が出にくく脳出血や心筋梗塞などの疾患の原因になるため、家庭で血圧を測定し記録すること、食生活や運動などの生活習慣を改善することの重要性を説きました。また、健康長寿の秘訣として「一読・十笑・百吸・千字・万歩」と紹介すると、参加者は一様に笑顔で頷いていました。

続いて栄養部の酒井優子管理栄養士が「健康を保つための食事」をテーマに減塩の食事について「食材や味付けを工夫することでおいしく豊かな食事になります」と話し、減塩の工夫として醤油などは小皿に取ってつけて食べることやしょうがなど香りの強い食材を選び薄味にすることなどを紹介しました。講演は大変好評で、終了後には吉野教授のものとたくさんの方が集って質問や感謝の言葉をかけていました。



■もの忘れセンターが東京都認知症疾患医療センターに登録

東京都では地域における認知症疾患の保健医療水準の向上を図るため、「認知症疾患医療センター」を設置し、当院のもの忘れセンターがその施設の1つとして登録されました。登録された医療機関は全部で10施設で、4月2日より運用を開始しています。この東京都認知症疾患医療センターは主な役割として専門医療相談の実施、認知症の診断と対応、専門医療・地域連携を支える人材の育成等に取り組むことになっています。

もの忘れセンター長の神崎恒一教授は「認知症疾患医療センターの役割は、端的に言えば、認知症の方を地域で支えるための仕組みを作ることです。もの忘れセンターはコーディネーター役として全力を尽くします。そして、このような体制を完成させるためには皆様の理解と協力が必要です。是非ともよろしくお願いたします」と話しています。

■シティバス新ルート「杏林大学病院」つじヶ丘駅北口」の運行開始

杏林大学病院とつじヶ丘駅北口を結ぶ三鷹シティバスの新ルートが3月26日(月)から運行を始めました。

杏林大学病院とつじヶ丘駅北口を結ぶ三鷹シティバス「新川・中原ルート」は、三鷹市の交通不便地域を解消するとともに、高齢者等の利用者の利便性の向上を目的に三鷹市と調布市が共同で運行するもので、小田急バス(株)と京王バス(株)が運行事業者となります。

「新川・中原ルート」は、新川団地中央を経由する杏林大学病院とつじヶ丘駅北口間で、バス停は14か所あります。運行時間は7時15分から19時50分までで、30分間隔で2台の車両を使用し1日26回運行されます。乗車定員は36人で、料金は大人二百円、こども百円です。



■平成24年度公開講演会スケジュール

杏林大学では、本年度も医療・健康などをテーマに公開講演会を実施いたします。皆様のお越しをお待ちしております。※**入場無料**

【会場】三鷹：杏林大学 三鷹キャンパス大学院講堂
八王子：八王子学園都市センター



開催日/会場	テーマ	講師
5月19日(土) 八王子	地縁と地域力～明るい日本復興へのきずな創造～	熊谷文枝
15:20-16:50	外国語学部客員教授	熊谷文枝
6月8日(金) 三鷹	糖尿病性足病変について～足を失わないために～	大浦紀彦
18:00-19:30	医学部准教授	大浦紀彦
6月16日(土) 三鷹	感染制御のヒント プロの感染防御策	小林 治
13:30-15:00	保健学部教授	小林 治
7月7日(土) 三鷹	身につけたいですね! 役立つストレスマネジメント～心と身体のつながり～	松井知子
13:30-15:00	保健学部講師	松井知子
7月21日(土) 三鷹	生活習慣病を予防しよう～日々の食生活の注意点～	塚田芳枝
13:30-15:00	杏林大学病院栄養部科長	塚田芳枝
9月1日(土) 三鷹	がんの話～がん薬物療法の進歩～	古瀬純司
13:30-15:00	医学部教授	古瀬純司
9月8日(土) 八王子	TPP交渉の展望と課題	久野 新
13:30-15:00	総合政策学部講師	久野 新
9月29日(土) 八王子	国際政治の歴史と展望	島村直幸
13:30-15:00	総合政策学部講師	島村直幸

●●●病院紹介動画を作成●●●

この度、当院の概要を紹介する動画を作成し、病院公式ホームページに掲載しました。動画の内容は、当院の特長である高度救命救急センターや総合周産期母子医療センターを始めとし、外来や病棟の紹介や働いている医師や看護師のインタビューなどを盛り込みました。私達が患者さんへ医療を提供する上で大切にしていることをお伝えできればと思っています。